

鳥取県米子市



中国横断自動車道岡山・米子線建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

寄

上福万遺跡・日下遺跡 贈  
石州府第1遺跡・石州府古墳群

(本文編)



1985

財団法人 鳥取県教育文化財団

上福万遺跡・日下遺跡・石州府第1遺跡・石州府古墳群

正 誤 表

ページ	行	誤	正
5	10	陶器、	陶磁器、
	15	陶器等の散布、	陶磁器等の散布、
/ /	34	垂円礫 <sup>×</sup> 垂円礫層	垂円礫 <sup>×</sup> 垂円礫層
44	8	木 <sup>×</sup> 前石器	特殊石器
65	挿表2	木 <sup>×</sup> 前石器一覧表	特殊石器一覧表
77	9	JPit 3	9EJPit 3
95	3	木 <sup>×</sup> 前石器	特殊石器
/ & 3	9	硬玉製で、	軟玉製で、
付図9			9ライン以南のDOTの原位置はすべて西へ10 <sup>m</sup> 移動した箇所である。

鳥取県米子市

中国横断自動車道岡山・米子線建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

上福万遺跡・日下遺跡  
石州府第1遺跡・石州府古墳群

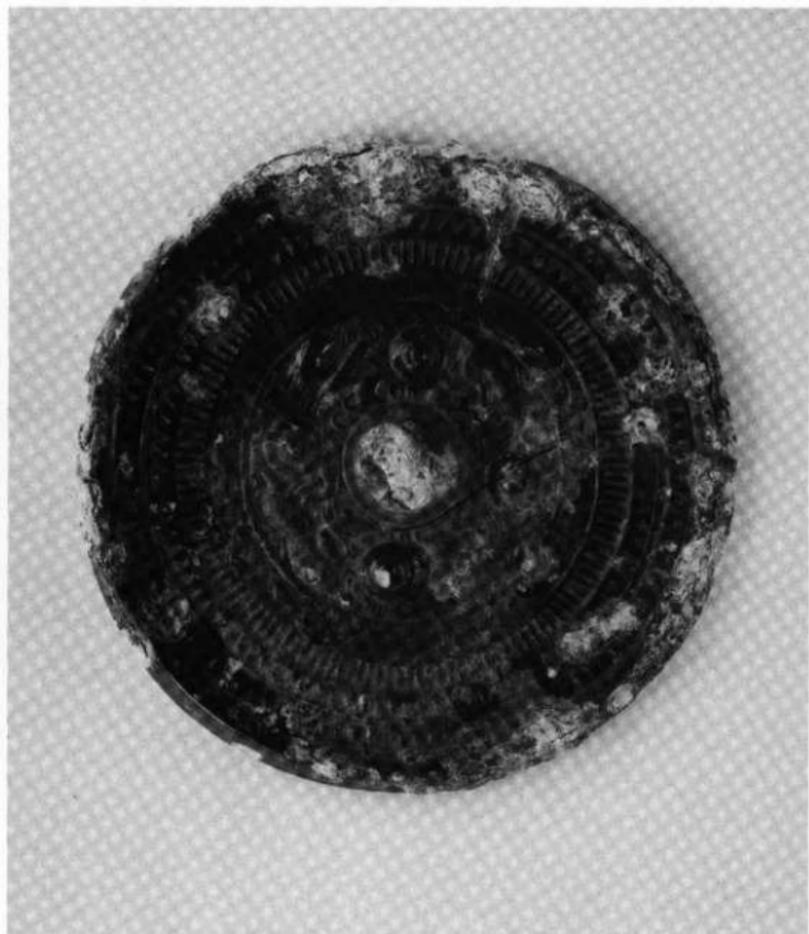
(本文編)



財団法人 鳥取県教育文化財団



縄文式土器（深鉢）上福万遺跡出土



銅鏡（獸帶鏡）石州府29号墳出土

## 序 文

中国横断自動車道岡山・米子線の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、日本道路公団の委託を受けて、昭和57年8月から当財団が実施しているところである。

昭和59年度は、大山の北西に位置する佐陀川左岸の上福万遺跡を中心に調査を行った。

調査の結果、当初予想された古墳期集落跡のほか、その下層部約7000平方メートルから縄文時代早期の集石遺構31基をはじめ、多数の土器類、石器類が検出された。

現在までのところ、本県ではこのような規模をもつ縄文時代早期の発掘例はなく、今後本県における古代史の解明に役立つことはもとより、広く研究者に活用されることを期待してやまない次第である。

おわりに、この調査に全面的な御協力をいただいた地元の皆さんをはじめ、御指導いただいた方々、そのほか関係の各位に対し心から感謝し、厚くお礼を申し上げます。

昭和60年10月

財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 西尾 邑 次

## 例 言

- 1 本報告書は、日本道路公団の委託をうけて、鳥取県教育文化財団がおこなった「中国横断自動車道岡山・米子線」の米子地区の発掘調査報告書である。
- 2 この調査は、米子市上福万字北林・廣畑・八久保田南に所在する上福万遺跡、米子市日下字河原洲地域の日下遺跡、米子市石州府字寺處ノ参に所在する石州府29・30号墳、米子市石州府字山ノ下タニに所在する石州府第1遺跡の発掘調査である。
- 3 赤木三郎氏（鳥取大学教育学部長）、根鈴輝雄氏（倉吉市社会教育課嘱託）から御多忙のところ原稿をいただいた。謝意を表したい。また、赤木三郎氏に石材鑑定をしていただいた。
- 4 発掘ならびに本報告書の作成にあたっては、つぎの方々から多くの御教示をいただいた。

鳥取県文化財保護審議会委員

帝塚山大学

山本清 手嶋義之 佐々木謙 稲田孝司

堅田直 家根祥多 磯谷和明

権原考古学研究所

鳥取県立博物館

松田真一

福井淳人

柏原市歴史資料館

鳥取大学

竹下賢

平勢隆郎

北九州市立歴史博物館

鳥取市教育委員会

小田富士雄

平川誠

倉吉市立博物館

奈良大学

真田廣幸

水野正好 酒井龍一 泉拓良 植野浩三

奈良国立文化財研究所

山口大学

田中塚 町田章 土肥孝

中村友博

香川大学

新潟県教育委員会

丹羽祐一

田中靖

京都大学

桜井市教育委員会

山中一郎

清水真一

- 5 発掘調査に際し、鳥取県教育委員会文化課からの御指導をいただいた。

亀井照人・田中弘道

- 6 発掘調査（約40日間の現地調査）及び遺物整理・報告書作成にあたっては、鳥取県埋蔵文化財センターの次の方々から御指導、御教示をいただいた。

野田久男 加藤隆昭 久保穰二郎

また、埋蔵文化財センター内の施設・図書等を利用させていただくことにより、報告書作成の作業を滞りなく進めることができた。

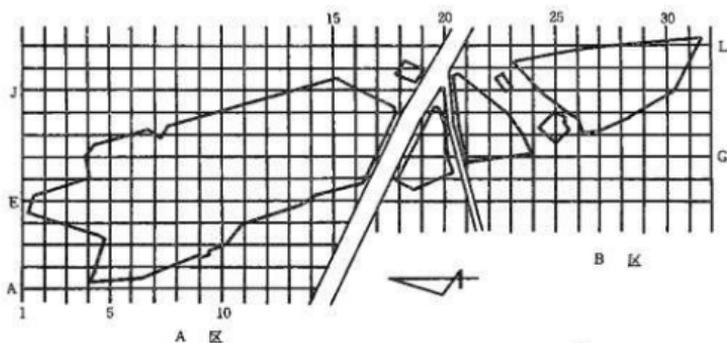
- 7 本報告書の編集は、長岡・松本・笹尾・太田の4名による討議に基づいておこなった。

- 8 本文の遺構の執筆は調査担当者がおこない、その他は目次に氏名を記した。
- 9 遺構の実測、凶面作成は、左藤博、杉田千津子、谷野重美、田中正夫、西田武史、長谷川萬代の協力を得て調査員、調査補助員（野崎正美）が行なった。
- 10 遺物の整理は主に酒巻佐代子、柴田登喜子、寺岡昭子、山崎保子、山本博子、山本文恵が行ない、土器実測に坂口江津子、福田和美、石製品の实測に小林美奈の協力を得た。  
また、石器・石鏃等の実測は調査員が行なった。
- 11 遺構の浄書は主に左藤博、入江典子、田中真由美が遺物の浄書は坂口江津子、福田和美が行ない調査員が補助した。また、石器・石鏃の浄書は笹尾が行なった。
- 12 遺構の撮影は調査担当者が行ない、遺物の撮影は長岡が行なった。
- 13 本報告書中の地図は、国土地理院発行の5万分の1地図「米子」、中国横断自動車道岡山・米子線・設計図（日本道路公団 1:6,000）を利用した。
- 14 本報告書にかかる遺物は、現在鳥取県埋蔵文化財センター（鳥取県岩美郡国府町）に保管し、将来的には米子市教育委員会に移管する予定である。
- 15 石州府第1遺跡は、1977年大山西麓埋文分布調査でいう石州府第1遺跡、1982年刊全国遺跡地図でいう米開拓第3遺跡である。「米子市石州府遺跡群発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ・1983・1984」中の石州府第1遺跡は、1977年大山西麓埋文分布調査でいう、石州府第4遺跡である。
- 16 調査に際し、<sup>まがた</sup>県地区自治連合会長野坂松衛、森山重義、松原利三郎には地元との調整等に援助をいただき作業を順調に進めることができた。明記して感謝しお礼を申し上げます。

(敬称略)

## 凡 例

- 1 本報告書における方位は、すべて磁北を示す。
- 2 本報告書における遺物の記述は、各節あるいは各遺構の末尾に観察表を用いた。
- 3 当遺跡は10m×10mのグリッドを設定し区分した。
- 4 本報告書における遺構記号は次のように表わす。  
 SB：掘立柱建物 SI：竪穴住居 SK：土坑・土塋 SX：古墳・墳墓  
 JSD：縄文溝状遺構 JSK：縄文土坑 JPit：縄文ピット
- 5 遺構挿図中における遺物記号は次のように表わす。  
 C：古銭 H：石器または剥片 J：玉製品 M：鏡 F：鉄製品 Po：土器・瓦  
 S：石製品 Z：石鏃
- 6 集石における遺物表示は次のように表わす。  
 石皿：++++ 磨石：----- 敲石：■■■■ 砥石：□□□□ 焼石：△△△△  
 磨石・敲石・石皿の磨滅範囲：----- 敲打痕：—— 過度の磨耗：-----  
 石斧等の敲打痕：△△△△ 腐痕：■■■■
- 7 本報告書中のピットの計数は、P（長径×短径-深さ）で示した。単位はmである。
- 8 遺構挿図中におけるセクション・エレベーションの基準線標高はH—の記号で表わす。
- 9 遺構挿図中における遺構検出面は//////のように表わす。
- 10 実測図において粘土帯の継ぎ目がみられるものは、/で表わす。



挿図 I 上福万遺跡グリッド設定位置図

# 上福万遺跡・日下遺跡・石州府第1遺跡・石州府古墳群目次

序文	
例言	
凡例	

第1章 遺跡の概要	(長岡)	
第1節 調査に至る経過		1
第2節 調査経過及び概要		1
1 上福万遺跡		1
2 日下遺跡		3
3 石州府古墳群		3
4 石州府第1遺跡		4

第2章 位置と環境	(松本)	
第1節 地理的環境		5
第2節 歴史的環境		5

第3章 上福万遺跡の調査		
第1節 上福万遺跡の自然環境	(赤木三郎)	9
1 上福万遺跡の地形		9
2 上福万遺跡と周辺の地質概観		10
3 上福万扇状地の地質		11
4 古環境		12
5 遺跡の石材		13
第2節 縄文時代の遺構	(長岡・太田)	
1 集石		17
2 縄文土坑		69
3 縄文ピット		89
第3節 縄文時代の遺物		
1 縄文式土器	(太田)	95
2 原石・剥片・石器・石鏃について	(根鈴輝雄)	155
3 石皿・磨石・敲石・砥石・石斧・石錘・特殊石器・ペンダント他石製品について	(長岡)	175

第4節 縄文時代のまとめ	(長岡)	
1 集石遺構について		203
2 まとめ		204
第5節 古墳時代以降の遺構	(松本・笹尾)	
1 竪穴住居		205
2 掘立柱建物		237
3 土坑・土墳		250
第6節 遺構外遺物	(笹尾)	258
第7節 古墳時代以降のまとめ	(松本)	
1 竪穴住居		261
2 掘立柱建物		262
3 まとめ		263
第4章 口下遺跡	(笹尾)	264
第5章 石州府古墳群	(松本)	
第1節 石州府29号墳		
1 墳 丘		273
2 周 溝		273
3 主 体 部		273
4 29号墳第1・2主体部内遺物		276
第2節 石州府30号墳		
1 墳 丘		280
2 周 溝		281
3 主 体 部		281
第3節 まとめ		281
第6章 石州府第1遺跡	(長岡)	283
調査関係者名簿		285

## 挿 図 目 次

挿図Ⅰ	上福万遺跡グリッド設定位置図	挿図24	集石14遺構図	31
挿図Ⅱ	上福万遺跡A・B区、日下遺跡 石州府第1遺跡、石州府古墳群 調査地区概略図…………… 2	挿図25	集石16遺構図	33
挿図Ⅲ	周辺遺跡分布図 …………… 6	挿図26	集石16遺物図 2	34
挿図Ⅳ-1	上福万遺跡付近の地形面分布図 9	挿図27	集石17遺物図	34
挿図Ⅳ-2	大山火山地質図 …………… 10	挿図28	集石17遺構図	35
挿図Ⅳ-3	上福万周辺の第四系層序表…… 11	挿図29	集石18遺構図	36
挿図Ⅳ-4	上福万セクションA柱状図…… 12	挿図30	集石18遺物図	36
挿図Ⅳ-5	米子付近の古地理図(縄文早期) 13	挿図31	集石19遺構図	37
	<b>上 福 万 遺 跡</b>	挿図32	集石20遺物図	38
挿図1	集石01遺構図 …………… 17	挿図33	集石21遺物図	38
挿図2	集石01遺物図 …………… 17	挿図34	集石20遺構図	39
挿図3	集石02遺構図 …………… 18	挿図35	集石21遺構図	41
挿図4	集石03遺構図 …………… 18	挿図36	集石22遺構図	42
挿図5	集石05遺構図 …………… 19	挿図37	集石23遺構図	43
挿図6	集石05遺物図1 …………… 20	挿図38	集石24遺構図	43
挿図7	集石05遺物図2 …………… 20	挿図39	集石25遺物図1	44
挿図8	集石06遺構図 …………… 20	挿図40	集石25遺構図	44
挿図9	集石07遺構図 …………… 21	挿図41	集石25遺物図2	45
挿図10	集石08遺物図 …………… 22	挿図42	集石26遺物図	46
挿図11	集石08遺構図 …………… 22	挿図43	集石26遺構図	47
挿図12	集石09遺構図 …………… 23	挿図44	集石27遺構図	48
挿図13	集石10遺物図 …………… 24	挿図45	集石28遺構図	49
挿図14	集石10遺構図 …………… 24	挿図46	集石29遺構図2	50
挿図15	集石11遺構図 …………… 26	挿図47	集石29遺物図	50
挿図16	集石12遺物図 …………… 25	挿図48	集石29遺構図1	51
挿図17	集石12遺構図 …………… 27	挿図49	集石30遺構図	53
挿図18	集石13遺構図 …………… 28	挿図50	集石30遺物図	55
挿図19	集石13遺物図1 …………… 29	挿図51	集石31遺構図	56
挿図20	集石13遺物図2 …………… 29	挿図52	集石31遺物図	56
挿図21	集石14遺物図 …………… 29	挿図53	集石32遺構図	57
挿図22	集石15遺構図 …………… 30	挿図54	J S K01遺構図	69
挿図23	集石16遺物図1 …………… 30	挿図55	J S K02遺構図	69
		挿図56	J S K03遺構図	69
		挿図57	J S K04遺構図	69

挿図58	J S K 05遺構図	70	挿図94	J S K 43遺構図	82
挿図59	J S K 06遺構図	70	挿図95	J S K 44遺構図	82
挿図60	J S K 07遺構図	70	挿図96	J S K 44遺物図	83
挿図61	J S K 08遺構図	70	挿図97	J S K 45遺構図	83
挿図62	J S K 09遺構図	71	挿図98	J S K 46遺構図	83
挿図63	J S K 10遺構図	71	挿図99	J S K 47遺構図	83
挿図64	J S K 11遺構図	71	挿図100	J S K 48遺構図	84
挿図65	J S K 12遺構図	72	挿図101	J S K 49遺構図	84
挿図66	J S K 13遺構図	72	挿図102	J S K 50遺構図	84
挿図67	J S K 14遺構図	72	挿図103	J S K 51遺構図	85
挿図68	J S K 15遺構図	73	挿図104	J S K 52遺構図	85
挿図69	J S K 16遺物図	73	挿図105	J S K 53遺構図	85
挿図70	J S K 16遺構図	73	挿図106	J S K 54遺構図	86
挿図71	J S K 17遺構図	74	挿図107	J S K 55遺構図	86
挿図72	J S K 18遺構図	74	挿図108	J S K 57遺構図	87
挿図73	J S K 19遺構図	74	挿図109	J S K 58遺構図	87
挿図74	J S K 20遺構図	75	挿図110	J S K 58遺物図	88
挿図75	J S K 21遺構図	75	挿図111	J S K 59遺構図	88
挿図76	J S K 22遺構図	76	挿図112	J S K 56遺構図	88
挿図77	J S K 24遺構図	76	挿図113	J S K 56遺物図	88
挿図78	J S K 25遺構図	76	挿図114	9 C JPit 2 遺構図	89
挿図79	J S K 26遺構図	76	挿図115	8 D JPit 8 遺構図	89
挿図80	J S K 27遺構図	77	挿図116	先行する土器群遺物実測図	96
挿図81	J S K 28・29遺構図	77	挿図117	I類A種遺物実測図	98
挿図82	J S K 30・JPit 5 遺構図	78	挿図118	I類B種①遺物実測図	100
挿図83	J S K 31遺構図	78	挿図119	I類B種①遺物実測図	101
挿図84	J S K 32遺構図	79	挿図120	I類B種②—a 遺物実測図	103
挿図85	J S K 33遺構図	79	挿図121	I類B種②—a 遺物実測図	104
挿図86	J S K 34遺構図	80	挿図122	I類B種②—a 遺物実測図	105
挿図87	J S K 35遺構図	80	挿図123	I類B種②—b 遺物実測図	106
挿図88	J S K 36遺構図	80	挿図124	I類B種②—b 遺物実測図	107
挿図89	J S K 38遺構図	80	挿図125	I類C種①遺物実測図	108
挿図90	J S K 39遺構図	81	挿図126	I類C種①遺物実測図	109
挿図91	J S K 40遺構図	81	挿図127	I類C種②遺物実測図	110
挿図92	J S K 40遺物図	81	挿図128	I類C種②遺物実測図	111
挿図93	J S K 42遺構図	81	挿図129	I類D種遺物実測図	112

挿図130	Ⅱ類A種遺物実測図	114	挿図166	敲石実測図1	179
挿図131	Ⅱ類A種遺物実測図	115	挿図167	◇ 2	180
挿図132	Ⅱ類A種遺物実測図	116	挿図168	砥石実測図	181
挿図133	Ⅱ類A種・C種遺物実測図	117	挿図169	石斧実測図1	182
挿図134	Ⅱ類B種遺物実測図	119	挿図170	◇ 2	182
挿図135	Ⅱ類B種遺物実測図	120	挿図171	石錘実測図	183
挿図136	Ⅲ類遺物実測図	122	挿図172	石製品実測図1	184
挿図137	Ⅳ類遺物実測図	124	挿図173	◇ 2	185
挿図138	Ⅳ類遺物実測図	125	挿図174	S I 01遺構図	205
挿図139	Ⅳ類遺物実測図	126	挿図175	S I 01遺物図1	206
挿図140	Ⅴ類遺物実測図	128	挿図176	S I 01遺物図2	207
挿図141	Ⅵ類遺物実測図	129	挿図177	S I 02遺構図	208
挿図142	Ⅶ類遺物実測図	131	挿図178	S I 02・07遺物図1	209
挿図143	Ⅷ類遺物実測図	132	挿図179	S I 02・07遺物図2	210
挿図144	Ⅷ類遺物実測図	134	挿図180	S I 02遺物図3	211
挿図145	前期遺物実測図	137	挿図181	S I 03遺構図	212
挿図146	後期遺物実測図	137	挿図182	S I 03遺物出土状況図	212
挿図147	11 I 縄文式土器出土状況	139	挿図183	S I 03遺物図1	213
挿図148	10 D 縄文式土器出土状況	139	挿図184	S I 03遺物図2	213
挿図149	剥片計測モデル図	155	挿図185	S I 04遺構図	214
挿図150	素材及び石器・石核の石材相関図	158	挿図186	S I 04遺物図1	215
挿図151	石鏃の長さとの相関図	160	挿図187	S I 04 甌型土器出土状況図	216
挿図152	石器実測図 1	165	挿図188	S I 04遺物図2	216
挿図153	◇ 2	166	挿図189	S I 05遺構図	217
挿図154	◇ 3	167	挿図190	S I 05遺物図	218
挿図155	◇ 4	168	挿図191	S I 06遺構図	219
挿図156	◇ 5	169	挿図192	S I 06遺物図	219
挿図157	石鏃実測図 1	170	挿図193	S I 08遺構図	220
挿図158	◇ 2	171	挿図194	S I 08遺物図	220
挿図159	◇ 3	172	挿図195	S I 09遺構図	221
挿図160	◇ 4	173	挿図196	S I 09遺物図1	221
挿図161	◇ 5	174	挿図197	S I 09遺物図2	221
挿図162	石皿実測図 1	175	挿図198	S I 09遺物図3	222
挿図163	◇ 2	176	挿図199	S I 10遺構図	222
挿図164	磨石実測図 1	177	挿図200	S I 10遺物図	222
挿図165	◇ 2	178	挿図201	S I 11遺構図	223

挿図202	S I 11遺物図	224	挿図238	S K 06遺物図	252
挿図203	S I 11遺物図	224	挿図239	S K 07遺構図	253
挿図204	S I 12・13遺構図	225	挿図240	S K 09遺物図	253
挿図205	S I 12・13遺物図	226	挿図241	S K 09遺構図	253
挿図206	S I 14遺物図	227	挿図242	S K 12遺物図	253
挿図207	S I 14遺構図	227	挿図243	S K 12遺構図	253
挿図208	S B 01遺構図	237	挿図244	S K 13遺構図	254
挿図209	S B 02遺物図	237	挿図245	S K 14遺構図	254
挿図210	S B 02遺構図	237	挿図246	S K 15遺構図	255
挿図211	S B 03遺構図	238	挿図247	S K 16遺構図	255
挿図212	S B 04遺構図	238	挿図248	S K 17遺構図	255
挿図213	S B 05遺物図	239	挿図249	S K 18遺構図	256
挿図214	S B 05遺構図	239	挿図250	S K 19遺構図	256
挿図215	S B 06遺構図	239	挿図251	土師器・須恵器・瓦実測図	
挿図216	S B 07遺構図	240		古銭拓影	258
挿図217	S B 08遺構図	240	挿図252	中世陶磁器実測図	259
挿図218	S B 09遺構図	241	挿図253	竪穴住居の変遷図(推定)	262
挿図219	S B 10遺構図	241	挿図254	掘立柱建物の長方形度と	
挿図220	S B 11遺構図	242		床面積の相関図	263
挿図221	S B 12遺構図	242		<b>日 下 遺 跡</b>	
挿図222	S B 13遺構図	243	挿図 1	第3・6トレンチ出土遺物図	264
挿図223	S B 14遺構図	243	挿図 2	日下遺跡トレンチ位置図	266
挿図224	S B 15遺構図	244	挿図 3	第1・2・4・5トレンチ断面図	267
挿図225	S B 16遺物図	244	挿図 4	第3・6トレンチ断面図	268
挿図226	S B 16遺構図	245		<b>石州府古墳群</b>	
挿図227	S B 17遺構図	245	挿図 1	調査前墳丘地形図	269
挿図228	S B 18遺構図	246	挿図 2	調査後墳丘地形図	270
挿図229	S B 19遺構図	247	挿図 3	29・30号墳墳丘断面図	271
挿図230	S B 19遺物図	247	挿図 4	29号墳第1～3主体部遺構図1	274
挿図231	S B 20遺構図	247	挿図 5	29号墳第2・3主体部遺物図	274
挿図232	S K 02遺構図	250	挿図 6	第2主体部遺物出土状況拡大図	275
挿図233	S K 03遺構図	251	挿図 7	29号墳第2主体部遺物図2	277
挿図234	S K 04遺構図	251	挿図 8	布の巻き方の模式図	278
挿図235	S K 05遺構図	251	挿図 9	第2主体部遺物図3	279
挿図236	S K 05遺物図	251	挿図10	29号墳周溝内・外遺物図	279
挿図237	S K 06遺構図	252	挿図11	30号墳第1主体部遺構・遺物図	280

## 石州府第1遺跡

挿図1 石州府第1遺跡トレンチ位置図… 283

挿図2 石州府第1遺跡断面図…………… 284

# 挿 表 目 次

## 上福万遺跡

挿表1 集石遺構出土縄文式土器一覽表… 58

挿表2 集石遺構出土 石皿・磨石・  
敲石・砥石・不明石器一覽表…… 65

挿表3 J S K出土縄文式土器一覽表…… 90

挿表4 J S K出土 石皿・磨石・敲石・  
石鏟一覽表… 94

挿表5 内面斜行沈線観察詳細…………… 136

挿表6 上福万遺跡出土縄文式土器  
纏年の位置づけ… 136

挿表7 I類B種押型文相關表…………… 140

挿表8 I類C種押型文相關表…………… 140

挿表9 内面斜行沈線・縄文式土器相關表 141

挿表10 内面斜行沈線タイプ相關表…… 141

挿表11 上福万遺跡A区縄文式土器觀察表 142

挿表12 上福万遺跡A区縄文式土器組成表 152

挿表13 素材及び石器・石核の  
石材別個数表… 157

挿表14 石器の石材別個数表 …………… 159

挿表15 石器の素材別個数表 …………… 159

挿表16 剥片・槓形剥片の相關表………… 159

挿表17 石鏟の石材別個数表 …………… 159

挿表18 グリッド毎の素材及び石器  
石核の石材別個数表… 161

挿表19 上福万遺跡石鏟觀察表…………… 162

挿表20 石皿一覽表 …………… 186

挿表21 磨石I類一覽表 …………… 186

挿表22 磨石II類一覽表 …………… 189

挿表23 敲石I類一覽表 …………… 193

挿表24 敲石II類一覽表 …………… 193

挿表25 敲石IV類一覽表 …………… 194

挿表26 敲石V類一覽表 …………… 197

挿表27 砥石一覽表 …………… 198

挿表28 石斧一覽表 …………… 198

挿表29 石鏟一覽表 …………… 198

挿表30 ペンダント他石製品 …………… 199

挿表31 石皿・磨石・敲石・砥石・石斧・石鏟  
特殊石器・ペンダント他石製品一覽表  
…………… 199

挿表32 竪穴住居一覽表 …………… 228

挿表33 竪穴住居遺物觀察表 …………… 228

挿表34 掘立柱建物一覽表 …………… 248

挿表35 掘立柱建物遺物觀察表…………… 248

挿表36 土坑・土壇遺物觀察表…………… 256

挿表37 中石陶磁器一覽表 …………… 259

挿表38 遺構外遺物一覽表 …………… 260

挿表39 竪穴住居の分類 …………… 262

## 日下遺跡

挿表1 日下遺跡遺物觀察表 …………… 265

## 石州府古墳群

挿表1 石州府古墳群遺物觀察表…………… 282

## 付 図 目 次

- 付図1 上福万遺跡A区全体遺構図(縄文時代)
- 付図2 上福万遺跡A区集石遺構図(縄文時代)
- 付図3 上福万遺跡A区全体遺構図(古墳時代以降)
- 付図3 上福万遺跡B区全体遺構図(古墳時代以降)
- 付図4~16 上福万遺跡A区出土縄文式土器DOT-MAP(平面)
- 付図4 先行する土器群・I類A種(押型文・山形)
- 付図5 I類B種①(押型文・小楕円)
- 付図6 I類B種②(押型文・中楕円)
- 付図7 I類B種(押型文・ナデ消し)
- 付図8 I類C種(押型文・中・大菱形)
- 付図9 II類A種・B種・C種(捺糸文)
- 付図10 III類(縄文)
- 付図11 IV類(沈線文)
- 付図12 V類(貝殻文)
- 付図13 VI類(刺突文)
- 付図14 VII類(無文)
- 付図15 VIII類(尖底)
- 付図16 前期遺物
- 付図17 上福万遺跡A区出土縄文式土器DOT-MAP(断面)
- 付図18 上福万遺跡A区出土石器DOT-MAP(平面)

# 第1章 遺跡の概要

## 第1節 調査に至る経過

昭和59年度に発掘調査を行なった遺跡は、上福万遺跡・日下遺跡・石州府第1遺跡及び石州府29号墳・30号墳の2古墳である。この地域は、古くより土師器等の散布が認められていたため、日本道路公団による中国横断自動車道岡山・米子線建設工事に伴い、昭和57年・58年度の久古第3・貝田原・林ヶ原遺跡の調査を引き続いて、事前発掘調査の必要が生じた。

日本道路公団は、鳥取県教育委員会と協議、財団法人鳥取県教育文化財団が発掘調査の委託を受け、西部埋蔵文化財調査事務所、所長1名、調査員4名、調査補助員1名が調査を行なうこととなった。

## 第2節 調査経過及び概要

### 1 上福万遺跡

上福万遺跡は、米子市上福万字北林、廣畑、八久保出南に、県道金屋谷一米子線を挟んで南北に所在しており、佐陀川の左岸、佐陀川によって形成された扇状地上に立地している。

県道より北側の地区は、畑・果樹園として利用されていた。土師器の散布が多く認められ、相当数の遺構の存在が見込まれたため、全面発掘調査を行なうこととなった。

県道より南側の地区は山林であったが、遺物散布がほとんど認められなかったため、昭和58年12月1日～15日まで、試掘調査が行なわれた。その結果、土師器、須恵器が出土した他、竪穴住居1棟が検出されたため、全面調査を行なうこととなった。

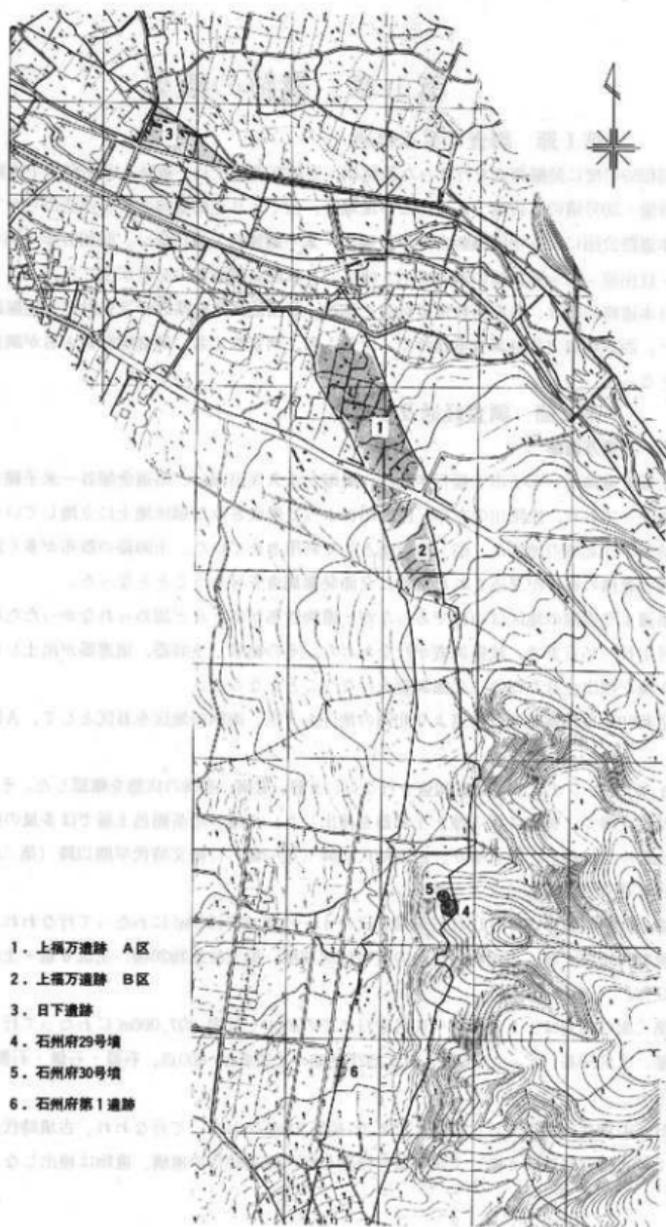
昭和59年度の調査は、県道より北側の地区をA区、南側の地区をB区として、A区より開始した。

まず、トレンチによる試掘調査を行ない、土層、遺構、遺物の状態を確認した。その結果、黒褐色粘質土層で、竪穴住居3棟と土師器を検出した。下層の暗茶褐色土層では多量の縄文時代早期の土器片を検出し、包含層が、古墳時代以降（第一面）、縄文時代早期以降（第二面）の二期に別れる複合遺跡であることが判明した。

第一面の調査は、4月10日～7月30日の4ヶ月間、約7,900㎡にわたって行なわれ、縄文時代後一晩期の土坑2基、古墳時代以降の竪穴住居13棟、掘立柱建物20棟、土坑6基・土城墓1基を検出した。

第二面の調査は、8月1日～10月27日までの約4ヶ月間、約7,000㎡にわたって行なわれ、集石31基、土坑58基、ピット109基、縄文時代早期の土器約33,600点、石器・石鏃・石製品888点を検出した。

B区の調査は10月29日～12月4日まで、約3,300㎡にわたって行なわれ、古墳時代以降の竪穴住居1棟、掘立柱建物2棟、土坑8基を検出した。縄文時代の遺構、遺物は検出しなかった。



1. 上福万遺跡 A区
2. 上福万遺跡 B区
3. 日下遺跡
4. 石州府29号墳
5. 石州府30号墳
6. 石州府第1遺跡

挿図Ⅰ 上福万遺跡A・B区・日下遺跡  
石州府第1遺跡・石州府古墳群  
調査地区概略図

## 2 日下遺跡

米子市日下字河原洲に所在しており、佐陀川の右岸、上福万遺跡の対岸に位置する。圃場整備が行なわれ、水田・畑地として利用されていた。弥生時代前期の土器、土師器等の散布が認められていたため、試掘調査（トレンチ6本）を行なった所、水田側に設定した第3、第6トレンチで多数の遺物を検出した。このため各2トレンチを拡張して調査を行なったが、遺構は検出できなかった。

調査期間は4月17日～5月26日までである。

## 3 石州府古墳群

石州府29号墳・30号墳は、石州府古墳群に属し、米子市石州府字寺處ノ参に所在する。

石州府古墳群は標高1,711mの大山の山麓西側、佐陀川と別所川とに挟まれた台地及び尾根上に位置している。台地上には10基、標高132mを頂部とする尾根上には34基の古墳が存在しており、今回調査対象となったのは29号墳・30号墳の2基のみである。

29号墳は、「大山西麓埋蔵文化財分布調査報告書 1977・3鳥取県教育委員会」の(3)埋蔵文化財地名表・a米子市・No12の古墳に該当する。30号墳は今回の調査で新しく確認された古墳である。

両古墳は尾根の端部に位置し、ここからは石州府・上福万・日下地区・岸本町・米子市を一望できる。

調査前の状況は、29号墳は径16m前後、高さ約3mの円墳状を呈し、30号墳は29号墳の裾部から北西へ伸びる台地状地形を呈していた。

調査は、まず発掘調査前の地形測量を韓北陽測量設計事務所に委託した。次に周溝確認用トレンチを設定し、各古墳の規模の確認、及び、29・30号墳の切り合い関係の観察を行なった。

その結果、29号墳は約16mの円墳であり、30号墳は29号墳の裾部を切って作られていることが判明した。

続いて、土層観察用のベルトを残して表土除去作業を行ない、両古墳の周溝と思われる落ち込みが確認され、調査を行なった。30号墳の周溝は29号墳側のみ認められ北側では検出されなかった。

29号墳は、墳頂部より掘り下げて行き、埋葬施設を検出し、調査を行なった。甕帯鏡（舶載）1面、鉄剣3本の他、土師器片が出土した。

30号墳は表土除去作業中に埋葬施設を検出し調査を行なった。

時期は、両古墳とも古墳時代前期後半に位置づけられる。

最後に、墳丘測量図を作成、盛土の残る29号墳については地山（岩盤）まで墳丘を断ち割り、土層を観察し、調査を終了した。

調査期間は10月23日～12月5日までであった。

#### 4 石州府第1遺跡

石州府第1遺跡は、米子市石州府字山ノ下タニに所在し、日野川右岸の河岸段丘上に位置する。本地域周辺は、大山山麓特有の黒ボクで覆われており、畑又は果樹園として広く利用されている。調査対象面積は、石州府第1遺跡の端部約280㎡である。

調査は、昭和59年10月24日よりトレンチ3本による試掘調査を開始したが、土師器片1片を検出したのみであったため、本調査の必要性なしと判断し、昭和59年11月9日に調査を終了した。

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境 (第3章1節参照)

上福万遺跡(1)、日下遺跡(2)、石州府29・30号墳(3)、石州府第1遺跡(4)は米子市街地から南東約8.0kmの地域に位置し、標高1,711mの大山の西麓、日野川右岸地に立地する。又、北部を佐陀川、西部を野本川が流れ、南部は岸本町に、東部は大山町に、それぞれ接している。

上福万遺跡は、米子市上福万字北林、廣畑、八久保田南に所在する。北部を流れる佐陀川によって形成された扇状地上に立地し〔標高75m前後〕、ローム質粘土層、黒ボク層(耕土)が堆積している。縄文時代・古墳時代・奈良時代の遺物、遺構が、これら2層を文化層として検出されている。従来の分布調査では、縄文土器(早期)、土師器、須恵器、陶器、石鏃等の散布、出土をみている。

日下遺跡のうち、今回調査を行なったのは、米子市日下河原淵の地域である。南部を流れる佐陀川によって形成された扇状地上に立地し〔標高65m前後〕、礫層、砂層(耕土)、粘質土層(耕土)等が堆積している。縄文時代～室町時代に至る遺物が包含されているが、遺構は確認できなかった。従来の分布調査では、土師器、須恵器、陶器等の散布、出土をみている。

石州府29・30号墳は、米子市石州府字寺處ノ参に所在し、大山火山活動に伴って形成された山陵〔溝口凝灰角礫岩〕の尾根端〔標高100m前後〕に位置する。29号墳主体部内において、獣帯鏡(舶載鏡)が出土した。

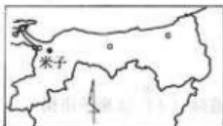
石州府第1遺跡は、米子市石州府字山ノ下タニに所在する。日野川水系による河岸段丘上〔岸本礫層〕に立地し〔標高75m前後〕、粘質土層、黒ボク層(耕土)が堆積している。従来の分布調査では、土師器の散布がみられる。

### 第2節 歴史的環境

#### ●縄文時代

旧石器時代～草創期とされる有舌尖頭器が、米子市奈喜良遺跡(5)、岸本町貝田原遺跡(6) 会見町諸木遺跡(7)で表採されており、大山町坊領、荘田でも出土している。これらの遺跡は、現標高100m前後の丘陵(台地)上及び、山陵の裾部に位置する。早期では、米子市上福万遺跡をはじめ、岸本町久古北田山(8)、久古第3(9)、番原第1(10)、須村(11)、林ヶ原(12)遺跡等があり、これらの遺跡は現標高70～200m前後の丘陵(台地)上に位置している。前期・中期では、米子市陰田(13)、目久美(14)遺跡、岸本町林ヶ原遺跡等があり、現標高200m前後の丘陵(台地)上及び、山陵の裾部に位置している。後期・晩期では、米子市上福万遺跡をはじめ、米子市陰田・目久美・青木(15)遺跡、岸本町林ヶ原遺跡等があり、現標高50～200m前後の丘陵(台地)上及び、山陵の裾部に位置している。旧石器～縄文時代を通じて、遺跡の位置は、現丘陵(台地)と、現山陵の裾部の二つの地域に大別できる。

縄文海進(有楽町海進)期の海面変動は、次の様に推定されている。



英 保 溝



1. 上福万遺跡 2. 日下遺跡 3. 石州府古墳群 4. 石州府第1遺跡 5. 奈喜良遺跡 6. 日田原遺跡 7. 漆木遺跡
8. 久吉北岡山遺跡 9. 久吉第3遺跡 10. 番原第1遺跡 11. 須村遺跡 12. 林ヶ原遺跡 13. 隠田遺跡 14. 日久美遺跡
15. 青木遺跡 16. 福市遺跡 17. 深助遺跡群 18. 岸本原遺跡 19. 大寺原遺跡 20. 日原古墳群 21. 喜段寺古墳群
22. 宗像古墳群 23. 西堂古墳群 24. 三崎古墳群 25. 東宗像古墳群 26. 日下古墳群 27. 尾高古墳群 28. 長者原古墳群
29. 越敷山古墳群 30. 大寺庵寺 31. 長者屋敷跡 32. 坂中庵寺 33. 大神山神社 34. 宗影神社 35. 尾高城跡 36. 河岡城跡
37. 岸本堂宮跡 38. 天万堂宮跡 39. 米子城 40. 41. 42. 石州府第2遺跡・第3遺跡・第4遺跡 43. 中園古墳群
44. 百塚原古墳群 45. 岡成古墳群 46. 石田古墳群 47. 越敷ヶ丘遺跡

挿図Ⅲ 周辺遺跡分布図

1 : 50,000

海進	18,000年前頃……………現海面より140m 内外低位
	10,000年前頃……………現海面より25～30m 内外低位
海退	6,000～5,000年前頃…縄文海進の頂期、現海面より0～5m 程度高位
	4,000～2,000年前頃…現海面より3m 内外低位
海進	2,000～現在……………現海面に至る

『地学辞典』によると、縄文海進以後のゆるやかな海退期に、砂州や砂丘が形成され、現海岸や平野が形成されていったとある。また、気候的には、18,000年前頃の寒冷期から増温期を経て、7,000～5,000年前頃の温暖期に至る。温暖期の気温は、現在よりも約2℃高く、その後減温期を経て現在に至るとある。

この縄文海進期の海面変動を、そのまま当てはめることは危険なのだが、一応米子市周辺では、次の様に推定される。18,000年前頃の低海面期に、「立川面」に相当する海岸段丘面？(岸本礫層？)が形成され、これ以降増温期に入るとともに縄文海進が始まる。この頃の日本列島は大陸と陸続きであり、現在の米子市周辺には、隠岐島まで続く広大な陸地が存在していた。6,000～5,000年前頃(縄文時代早期末～前期初頭頃)には、海進の頂期を迎え、現海面とほぼ同じ、もしくはやや高い海水準に達した。旧石器～縄文早期末頃までの遺跡が、現在の丘陵(台地)と山陵裾部にしか見られないのは、この期の遺跡の大半が、18,000年前以後の海進によって海中に没し、さらに沖積層に覆われてしまったためであろうと推察でき、現在山陵裾部にある遺跡は、かろうじて埋没から免れたのであろう。海進が進むにつれて、旧日野川・法勝寺川から供給された土砂、並びに海流の変化等による砂州や砂丘等の様相の変化(堆積環境の変化)が予想されるが、この期においても大小多くの砂州や砂丘が形成されていったことは確かであろう。その一つに米子市目久美遺跡があげられる。ここでの前期の生活範囲は、当時の汀線(現海抜0m付近)より微かな砂州(砂礫層よりなる)から南部の山裾部に向かって広がっていたと推定できる。前期の遺跡には、岸本町林ヶ原遺跡の様に、現在とほぼ同じ標高(200m前後)を持つ丘陵(台地)上に立地するものもあり、米子市目久美・陰田遺跡とは様相を異にする。これは生活習慣の違いであろう。縄文時代後期～弥生時代前期にかけて海退が生じ、当時の海面は現海面より3m内外低位にあったとされている。この頃には、ほぼ現在のマヅ浜半島に相当する砂州が存在しており、漁労を中心とした生活が、米子市目久美・陰田遺跡・境港市西灘遺跡等で営まれていた。境港市西灘遺跡は弥生時代前期の遺物も出土しており、遺跡は現海面下1.5m内外の海中に没している。これは前述の海面変動とほぼ一致しており、弥生時代前期から現在に至る海進により海中に没し、新しい砂州に埋もれていったと考えられる。また、これら遺跡周辺は、海退によって低湿地となり、弥生時代に入って水田として利用されていく。一方米子市上福万・青木遺跡・岸本町林ヶ原遺跡等では、前代の継続として狩猟・採集中心の生活が営まれていたのであろう。

#### ●弥生時代

縄文時代後期～弥生時代前期の海退によって低湿地が形成され、また砂州や砂丘も広がっていった。この時代の遺跡には、米子市目久美・福市(16)、青木・諏訪遺跡群(17)、岸本町岸本原遺跡(18)、大寺原遺跡(19)、林ヶ原遺跡等がある。総体して、農耕文化導入期の段階では、水

稲に最も適した場所（水利の良い低湿地）で水田を作り、その近くの微高地に集落を形成していたが、その後、灌漑技術・農工具の発達や鉄器の導入等により、人口が爆発的に増加し、米子市青木遺跡・諏訪遺跡群等の丘陵（台地）上に集落が広がっていったといえる。そして、岸本町林ヶ原遺跡のような標高200m前後の丘陵（台地）上にも、集落が形成されていくようになる。

#### ●古墳時代

前代に継続して、集落は丘陵（台地）上に広がっていくが、中期以降は低地に移行する傾向がある。米子市上福万遺跡においても前期集落が形成され、石州府29・30号墳（前期）が築かれている。前期古墳として米子市口原6号墳（20）、会見町普段寺1・2号墳（21）。中期古墳として米子市除田41号墳（13）、宗像41号墳（22）、岸本町吉定古墳群（23）、会見町三崎殿山古墳（24）がある。後期古墳として、米子市青木遺跡古墳群（15）、東宗像古墳群（25）、日下古墳群（26）、尾高古墳群（27）、岸本町長者原古墳群（28）、越敷山古墳群（29）等がある。

#### ●飛鳥～平安時代

米子市上福万遺跡において奈良時代の遺構・遺物が検出されている。白鳳期の寺院として、岸本町大寺廃寺（30）が建立される。平安期に入って、今回の調査地域が文献に登場する。『和名抄』によると「H下郷」という地名が見られ、会見郡十二郷の一つに数えられている。この郷域は、今回調査した地域、石州府を含めた佐陀川上・中流域周辺に比定できる。また『和名抄』によると「会見郡会見郷・巨勢郷」にあたる地域に、岸本町長者屋敷（31）、坂中廃寺跡（32）が所在し、この地域は会見郡衙の位置として想定されている。式内社として、米子市尾高に大神山神社（33）、宗像に宗形神社（34）がある。

#### ●鎌倉時代～現在

中世城館として、米子市尾高城跡（35）、河岡城跡（36）、岸本町岸本要害跡（37）、会見町天万要害跡（38）等がある。特に米子市尾高城は戦国期の交通の要衝に位置していたため尾子・毛利両氏の激戦地となった。江戸時代に入ると、吉川広家、中村一忠によって築かれた米子市米子城（39）は鳥取藩の支城となり、西伯者の中心となった。明治以後、米子市米子城は廃城となり、木地域周辺は一時島根県に属した（明治9年）が、再び鳥取県に属し（明治14年）現在に至っている。

註1 例言15参照

註2 「日本の第四紀研究—その発展と現状」（日本第四紀学会編・東京大学出版会）

完新世の海面変動 井関弘太郎（P89～97）参照